

＜書 評＞

福迫陽子・他 編

言語治療マニュアル

緒方 甫（産業医大リハビリテーション医学教室）

言語治療に関する出版物は、近年、数多くのものをみる。しかし、そのうち約6割以上のものは外国の出版物を翻訳したものであり、日本人が著したものは極めて少ない。

このたび刊行された「言語治療マニュアル」は福迫陽子、伊藤元信、笹沼澄子の三氏が編し、この分野の第一線で活躍され、わが国の指導的立場にある諸氏が分担されたものである。言語治療について系統的に書かれた本邦最初といってもさしつかえない。また、編集者のご努力によりその記述にも一貫性があり、通読しやすい。

内容は言語発達遅滞、失語症、機能的構音障害、麻痺性構音障害、口蓋裂、脳性麻痺、吃音、聴覚障害の8章に分け、聴力言語障害全般を対象としている。各章は検査と訓練、指導について、系統的に、具体的に記述され、それぞれの目的、適応、検査用具、手続きが理解しやすく記述されている。

本書の特徴の一つの柱は具体的な方法の紹介に主眼をおいてある。理論や歴史的考察は必要最大限においてある。言語治療の実際面を把握する上からは利用しやすい書である。

検査においては、標準化されてい

ないものも少なくないのが現状であるが、種々の試案が紹介され参考となる点が多い。

また、具体的な訓練法の、個々の障害に対する詳細は、専門書にゆだねなければならない点も本書の性格からしてあるが、基本的なものは、目的に応じた訓練法がわかりやすく紹介され、理解を深める上でも価値は高い。

付録には依頼書、報告書の具体的な例示があり、他の職種の間を理解する上からも興味ある項である。

本書は基本的な知識ならびに、かなりの実地経験を有する臨床向けともいえるが、医師をはじめとするリハビリテーション・スタッフも参考となる点が多い良書であるので、一読をおすすめしたい。

（B 5，頁 346，1984，¥ 9,600，
医歯薬出版 刊）